

SCOUT CHIBA

第85号
スカウトちば

「スカウトちば」は、日本ボーイスカウト千葉県連盟の広報誌です。

2017年3月1日発行

1面 セーフ・フロム・ハーム特集
スカウト座談会を終えて
2面 20MCCのその後
各地区での取り組み

3面 第21回全国スカウトフォーラム参加報告
4面 いつも元気…市原第1団
なかよし……香取第1団
「次長への手紙」

スカウトのみんなへ、そして保護者のみなさんへ

・・・セーフ・フロム・ハームってなんだろう？・・・

大寒という言葉がぴったりの1月20日(金)の夕方6時から、北総地区流山第4団から田北真裕穂さん(B S)、流山第5団から青木洸士郎君(B S)、吉崎友朗君(B S)、中野杏美さん(B S)、寺田莉里花さん(C S)の5人に集まっていただきました。



ボーイスカウト日本連盟では、「セーフ・フロム・ハーム」の取り組みを進めていますが、スカウトの皆さんとそのことを考えてみたかったです。一緒に話し合ったのは、ボーイスカウト千葉県連盟副理事長の増田秀夫さんと千葉県連盟事務局長の岸本幾代です。まずは言葉の意味を考えました。さすがに中学生は、「セーフ・フロム」までは意味がわかりましたが、「ハーム」が馴染みのない言葉でした。

☆ハームを理解しよう

ハームとは、心と体への害とか危害と訳すことができます。
つまり、いじめ、悪口、虐待、無関心などがあげられます。

↓
ハームから安全・安心である・・・「セーフ・フロム・ハーム」と理解できます。

☆ハームを感じたことはある？という問いに対して

小学校6年生の時

*学級内にいくつかのグループができていて、ありもしない悪口で仲間外れにされたことがある。
*その時は同じ思いをした友達が助けてくれた。

小学校2年生の時

*悪口を経験した。学校で低学年向けのアンケートがあって、いじめが止んだ。

SNSでの経験

*自分では直接の経験はないが、見聞きすると「危害を与えてはいけない」と感じる。

電車通学途中の経験

*混雑した中で、例えばちょっと足を踏まれただけで、踏んだ・踏まないで喧嘩になっているのを目にする。

☆スカウト活動の中ではどうだろう？

・女子スカウトが他にいないことで、時には嫌な思いをすることもあるが、気にしないで言い返している。
でも、たまにはつらくなることもある。

☆困った時にはどうしたらいいだろう？

・わかりあえる友達を探して相談すると、気持ちが楽になる。
・思いやりの心を持ちたい。
・やっている方がやられている方の気持ちがわかっていないのだから、人の気持ちを考えるようにしたい。

☆セーフ・フロム・ハームを知ってどう思う？

・考え方が広まるといいと思う。
・ボーイスカウトにはいじめがあってほしくない。



メッセージ

わずか5人のスカウトたちでしたが、学校でのいじめの経験が語られたことに驚きました。でも、わかり合える友達と一緒に解決したという言葉に大きな安堵感を覚えました。

私たちには、「ちかい」と「やくそく」を守り、年代に応じて「おきて」や「きまり」、「さだめ」に基づいて行動するという素晴らしい理念があります。それはすなわち人間の尊厳を尊重すること、「思いやりの心」に繋がっていきます。

セーフ・フロム・ハームの取り組みを通して、「思いやりの心を育む教育」をボーイスカウト運動から広く社会へ広げて行きたいものです。

セーフ・フロム・ハーム URL : <http://www.scout.or.jp/sfh/>

20MCCのその後

あれから半年、各地区で行なわれている取組について

南総地区におけるラウンドテーブルでの取り組み

南総地区では、ラウンドテーブルで20MCCの振り返りをした。

その際、20MCCでスカウトも指導者も体感した班活動の楽しさや、「スカウト自身が計画して行う」活動のすばらしさを改めて確認しあい、これからも隊活動に活かしていきたい！年に数回他隊のスカウト同士が集う場を持ちたい！という意見が出た。

どうやって進めるかということになり、一度の集まりで完結するのではなく、技能を競う場として位置づけてそのための訓練を各隊で行う、そのためには班長訓練が確実にできるようにしたい、では指導者の勉強をラウンドテーブルでやろうという話になった。そして、各隊のパトロールシステムを確立すると同時に指導者自身の技能向上を図っていこうということになった。

スカウト達の意欲が下がらないうちに第1回集会を早く実施するために、1月のラウンドテーブルで集会をいつ・どこで・どんな内容でするかを決める。そして、各隊が年間計画を決める3月までには、以降の挑戦課目や訓練内容について意見をまとめていきたい。

スカウト達の意欲と積極的で活発な活動と笑顔を引き出すために、地区内指導者が共に研鑽しあっていければと願っている。



八千代・習志野地区におけるラウンドテーブルでの取り組み

八千代・習志野地区では、ラウンドテーブルでウッドバッジ実修所プログラムトレーニングの第一教程の取り組みをはじめました。「計画した隊集会に伴うプログラムプロセスの各課程」の実施報告、評価、改善点について、隊長達が相互研鑽に取り組んでいます。

他隊の状況を聞く事、自隊の隊運営をより良くしていく上で参考になることが多く、コミッショナーとして必要な支援をさせていただきます。

今後はトレーナーとも協働してラウンドテーブルをより充実させることで、プログラムプロセスを実施展開出来る様、勉強を重ねていきます。



松戸・鎌ヶ谷地区におけるラウンドテーブルでの取り組み

きっかけは「また20MCCのメンバーでキャンプをしたい!」でした。標準隊のすばらしさを肌で感じていたのです。

さて、いざ計画となると各団を超えてのスケジュール調整は難航しましたが、松戸5団さんのハイク計画に合流する形で集会が実現されました。秋空の中、各班競い合っの活動は緊張、楽しさで充実したものとなりました。

この感覚の火が消えぬよう継続させたいものです。



県連盟コミッショナーより

20MCC 20MCC後の各隊の活動において、標準隊での活動の意味がスカウトからも指導者からも再認識されていることにうれしく思います。プログラムプロセスに則った班制教育と進歩制度の活用こそが、私たちが目指していくところです。

県連盟事業が、隊の活動を後押ししスカウトの成長につながることを願っています。

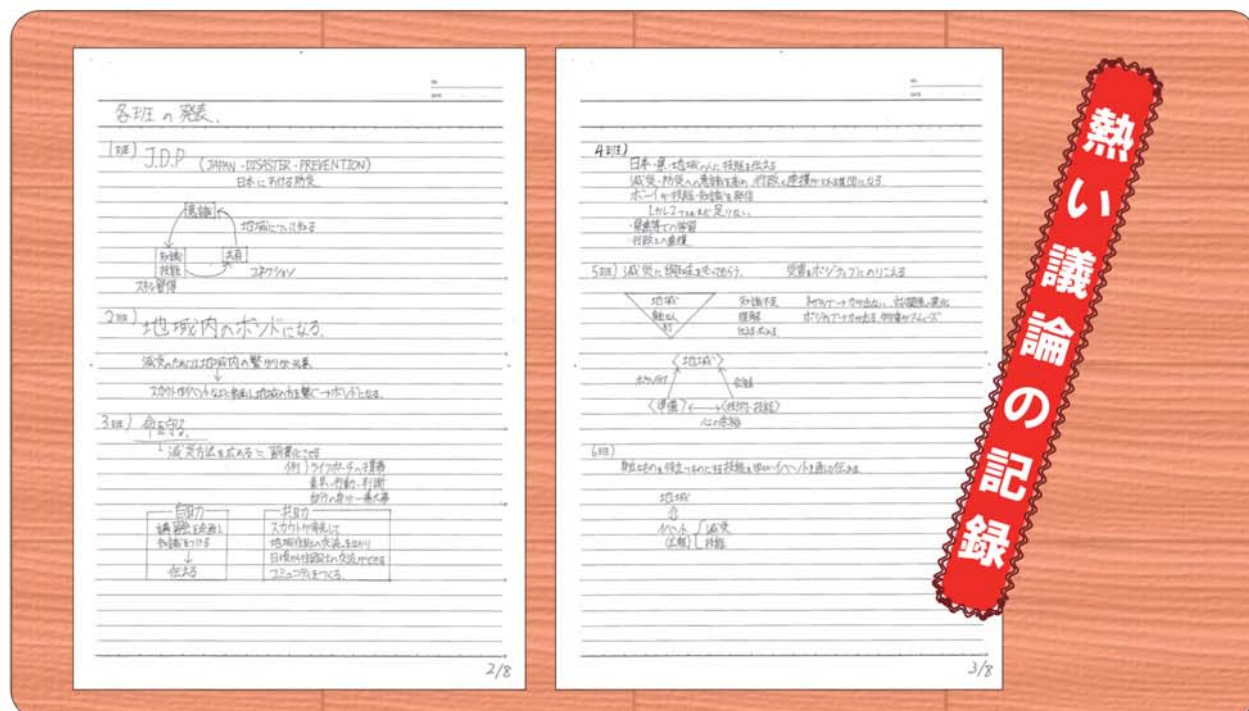
第21回全国スカウトフォーラム参加

千葉県連盟代表スカウト 鈴木 真三(八千代第4団ベンチャースカウト)

平成28年12月23日、知り合いもいないところに出かけるという少しの不安を覚えながら、石川県金沢市のキゴ山ふれあい学習センターに向かった。

でも心配はすぐに吹っ飛んで、2班のメンバーとしてやるときはやる！楽しむときは楽しむ！とメリハリをつけて活動でき、話し合いも友情も深めることができた。

全体としてはハイレベルな鋭い質問や意見が飛び交ったが、自分は自分らしくやろうと考えて、単純なことでも聞き、また小さなことでも発言し、自分なりに積極的に参加した。採択文の決定では、全代表スカウトの意見が囁み合い満場一致をみることもできた。最高のメンバーで決めたこの採択文を、千葉県連盟にもしっかりと定着させたい。



採択文

減災について私たちができることから取り組み、地域社会へ貢献できる知識・技能を持ったベンチャースカウトになる

アクションプラン

- ・スカウト活動をしていく中で災害を日ごろから意識し、ベンチャースカウトとしての進歩に取り組むことで、災害時に素早く対応できる知識・技能を身に付ける。
- ・減災への取り組みを個人でできることから行って、災害に備えることで心にゆとりを持ち、災害時には周りの人に思いやりのある行動をしていく。
- ・団や隊の中で災害を意識した上で、スカウトとして取るべき行動についての知識・技能を共有する機会を設ける。
- ・防災・減災を含めた地域の様々なイベントに参画して地域の方々と交流を行い、災害時にもその繋がりを活用できるようにする。

約束事項

本フォーラム参加者は、各自県連盟でアフターフォーラムを実施し、全国のベンチャースカウトがアクションプランに取り組むことができるように努める。

いつも 元気!!



さむさにまけるな! 香取第1団ビーバースカウト隊

スカウト達は活発で、屋外で走る遊びが大好きです。「丸ドッジ」(円形のドッジボール)は特に夢中になります。ふざけて投げたり、ボールを持った外野が円の周りを走ったり。2年生男子は、女子や若い兄弟児にはちょっと加減をしてくれます。「蛇じゃんけん」はどちらかが勝ちそうになったり、負けそうになったりすると、キャーキャー大騒ぎです。勝負がつくと、「もう一回!もう一回!」と、あんなに走ったのに疲れ知らずです。

なかよし!!

パーティーだ チーバ君

市原第1団カブスカウト隊

カブ隊のプログラムの1つとして始まった「クリスマス会」が他の隊と合同で行われるようになり、スカウトの兄弟姉妹、保護者、入団体験者等多く参加しにぎやかに楽しく実施しました。各隊で腕自慢の料理を作り皆で美味しくお腹いっぱい食べました。「パーティーだチーバ君」のテーマの下、各隊スタンプの発表に盛り上がり、カブスカウトは「いつも元気」でした。



次長への手紙

次長の君へ

第20回記念千葉県キャンポリーが終わってから、もう半年が過ぎた。大会当時はボーイスカウト隊の一団員として活動していた君も、新しい活動年度に入って次長になったとのこと。左の袖にグリーンバナーを付けた時、どんなことを思った? ボーイスカウト隊の班という、となく班長に目がいくけれど、実は「次長」には、班長にも劣らない名誉と任務があるんだ。もう隊長から聞いていると思うけど、班長不在の時には班長に代わって班をまとめ、班員に指導をしなくちゃいけないわね。ということは、次長の君は班長と同じようにいろいろなことができなといけないわけだ。そのためには、隊長や上級班長から班長と同じようにスカウト技能やマネジメントのことを教わる必要がある。ちゃんと教わっているかな? もし、まだだったら、次の班長会議の時に隊長にお願いするといいいよ。次長訓練をしっかり受けて、自信をもってほしいな。そして、活動の中で重要な意味を持つ班会議や班集会、班活動では、班員への目配りを忘れないでほしい。班長は班全体を見る必要があるの、班員一人ひとりの行動まで見守ることができないことがある。だからこそ、次長の君が班員一人ひとりのそばで、細かなアドバイスをし、手本を見せてほしい。そして班長に班員の「今」を伝え、班長と相談しながら班をまとめてほしい。次長の働きが班長を助けることになり、班の活動がより活発になる。これがボーイスカウト隊の次長の名誉だよ。君の活躍に期待しているよ。

メモ
20MCCが終わって
パトロールシステムのその後
県連盟コミッショナー
宇治 隆雄

【発行者】

日本ボーイスカウト千葉県連盟
千葉県千葉市稲毛区天台6-5-2
青少年女性会館内 043-287-1755
PR・広報委員会 編集責任 越森誠

お問い合わせは